

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

THIS PAGE BLANK (USPTO)

THIS PAGE BLANK (USPTO)

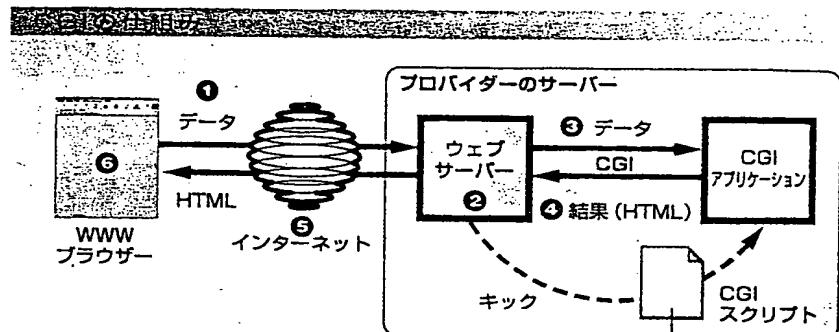


CGIとは

CGIとはCommon Gateway Interfaceの略で、WWWブラウザから送られたリクエストを処理するアプリケーションとウェブサーバーとの間のソフトウェア的なインターフェイスである。ウェブサーバーからどのようにデータを送り、アプリケーションがどのようにデータを返すかを取り決めている。

CGIがどのように使われるかを解説しよう。プロバイダーのサーバーコンピュータにホームページ制作者が作成したプログラムが置かれている。このプログラムはウェブサーバーから送られてくるデータを処理し、結果をウェブサーバーに返すものだ。プログラムは大抵Perlやシェルスクリプトというプログラム言語で記述されていて、一般にCGIスクリプトと呼ばれる。CGIスクリプトが起動するとファイルに書かれているプログラムすなわちCGIアプリケーションが実行される。

CGIアプリケーションの動きは次のような流れになる。



WWWブラウザで入力されたフォームのデータの処理方法が記述されている。

- ① WWWブラウザで入力されたフォームのデータは、CGIスクリプト宛てにウェブサーバーまで送られる。
- ② ウェブサーバーはデータを受け取り、CGIスクリプトを起動させてCGIアプリケーションを実行する。
- ③ さらにウェブサーバーはCGIアプリケーションにデータを渡す。
- ④ CGIアプリケーションは受け取ったデータを処理して結果をHTMLで返す。

- ⑤ ウェブサーバーは送られてきたHTMLをWWWブラウザに返す。
 - ⑥ WWWブラウザは結果のHTMLを表示する。
- このようにCGIを使えばインタラクティブな組みを作ることができる。
CGIスクリプトを置くサーバー上のディレクトリーはプロバイダーによって異なる。222ページの表を参考にするか、プロバイダーに直接問い合わせてほしい。



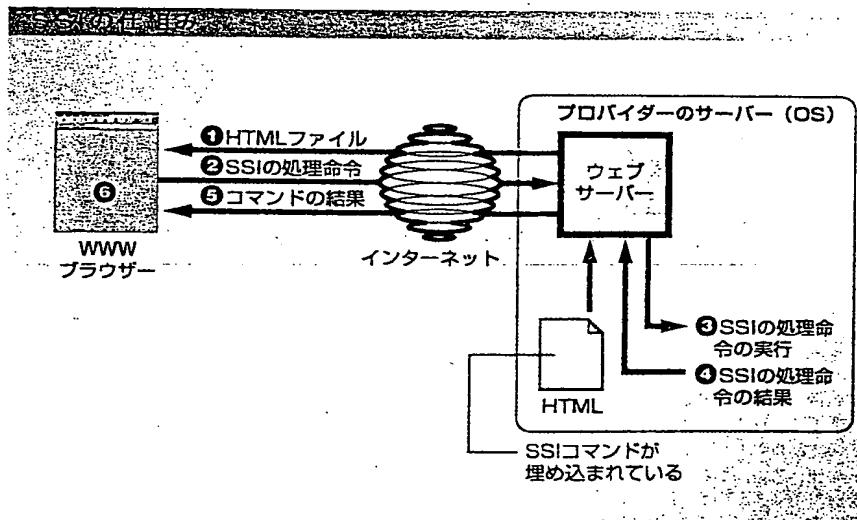
SSIとは

SSIとはServer Side Includeの略で、HTMLタグの中に埋め込まれた命令をサーバー側で実行し、その結果をHTMLの中に埋め込んで表示する組みである。

```
<html>
<body>
現在の時刻は
<!--#exec cmd="date"-->
(カッコ内)
</body>
</html>
```

図のHTMLの<!--#exec cmd="date"-->というタグがSSIである。これはサーバーのオペレーティングシステムであるUNIXの「date」这样一个のコマンドをサーバーで実行しろということを表している。「date」は、UNIXで日付と時刻を表示させるコマンドである。このHTMLファイルをWWWブラウザで表示させると次のようになる。

現在の時刻は Sat Sep 5 00:17:33 JST 1998 です。



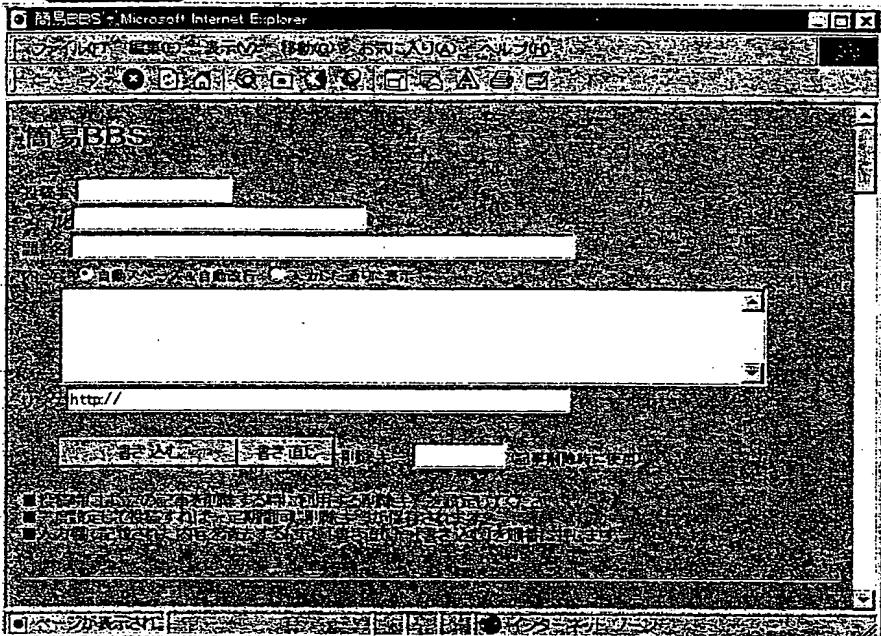
- SSIの処理の流れは次のようにになっている。
- ① SSIが埋め込まれたHTMLファイルをWWWブラウザで読み込む。
 - ② SSIの処理命令をウェブサーバーに送る。
 - ③ ウェブサーバーは、ウェブサーバーが稼働しているOSに対してSSIの処理命令を実行する。
 - ④ OSから返ってきた実行結果をウェブサーバーへ受け取る。

- ⑤ ウェブサーバーがWWWブラウザに実行結果を送る。
 - ⑥ 実行結果が埋め込まれたHTMLが表示される。
- SSIはUNIX標準のコマンド以外の実行ファイルも指定でき、セキュリティホールになりやすいので使用を禁止しているプロバイダーも多い。実際にSSIが使えるかどうかを自分が契約しているプロバイダーに確認しておこう。

THIS PAGE BLANK (USPTO)

Tune Up 1

掲示板を作ろう



N
3.0 N
4.0 3.0 4.0

自分のホームページで掲示板システムを作成するのはどうだろうか。仲間同士のコミュニケーションに、またさまざまな人と知り合うために、掲示板は大活躍するだろう。今回紹介する掲示板システムはたった3つのファイルを自分のウェブサイトに置くだけでできてしまうすぐれものだ。難しい知識も必要としないのでだれにでもできる。簡単に作れるといつても十分な機能を持った立派なシステムだ。これを設置すればアクセスが一気に増えること間違いなし。

CD-ROM収録先:
CD-ROM
WINDOWS [A] HTML→Win-Tune1
マッキントッシュ [A] HTML→Mac-Tune1



- ① 実行環境を調べる
- ② ファイルを編集する
- ③ ファイルをサーバー上に送る
- ④ フォルダの権限やマスキングを設定する
- ⑤ 掲示板システムを実行してみる
- ⑥ ユーザへの対応

1 実行環境を調べる

この企画で紹介するCGIスクリプトはウェブサーバーとしてUNIX上で動くNCSA-HTTPdとApacheを前提にしている。これ以外のウェブサーバーを使っているプロバイダーでは動作を保証できない。

Tune1フォルダーを開くと3つのファイルをが入っている。「jcode.pl」は日本語コード変換のプログラムで、「minibbs.cgi」は掲示板システム本体のCGIスクリプトだ。「minibbs.dat」は掲示板システムのデータが保存されるファイルである。このシステムはCGIスクリプトが実行できるディレクトリーであればどこにでも置ける。



2 ファイルを編集する

「jcode.pl」はいっさい編集せずにそのまま使うが、「minibbs.cgi」は環境に合わせて編集する必要がある。

まず最初に1行目のPerlの絶対パスをプロバイダーから指定されたものに変える。222ページにある表を参考にしてほしい。この文は必ずファイルの1行目になければならないので1行目に改行文字などを入れないように注意しよう。また頭に「#」を付けるのも忘れないようにする。

次に「必ずあなたの環境に合わせて書き換える項目」の部分を変える。

「簡易BBS」を自分の掲示板システム名に変え、「\$reload=」以下のURLをminibbs.cgiを置くURLに変える。また「\$modoru=」以下のURLを掲示板を退出した際に表示させるページのURLに変える。いずれの値もシングルクオーテーション('')で囲むのを忘れないようにしよう。

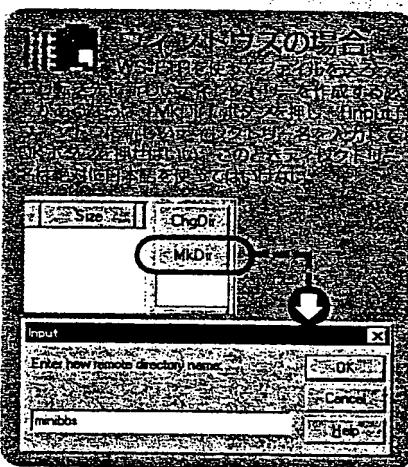
```
#!/usr/local/bin/perl
# 簡易BBS version 8.5 (フリーソフト)
# Script written by Kazu.Y
# Created on: 02/05/96
# Last Modified on: 14/NOV/97
Perlの置き場所を覚えておこう

-----[初期設定]-----
-----[必ずあなたの環境に合わせて書き替える項目]-----
#◆掲示板の名前
$title = "簡易BBS";
#◆このスクリプトの位置をURLで設定
$reload = "http://www.host.name/~user/cgi-bin/minibbs.cgi";
#◆画面の「終了」リンク先をURLで設定
$modoru = "http://www.host.name/~user/~";
minibbs.cgiを置く場所に変更する
```

③ ファイルを ウェブサイトに送る

ファイルの編集が終わったら「jcode.pl」、「minibbs.cgi」、「minibbs.dat」を契約しているプロバイダーのサーバーにある自分のディレクトリーの下の揭示文システムを置くディレクトリーに送る。プロバイダーでCGIを置く場所を限定している場合は、そのディレクトリーの下に置こう。このとき3つのファイルは同じディレクトリーに置く必要がある。そこで「minibbs」というディレクトリーを作り、その中にこの3つのファイルを置くことにする。

ファイルの転送方法は211、212ページで説明した通りだ。そこでここではFTPソフトを使ったディレクトリーの作成方法を説明しよう。



④ ファイルのパーミッションを設定する

ファイルのパーミッションはそれぞれ次のように設定する。

表中の「r」は読み取り可能、「w」は書き込み可能、「x」は実行可能を表している。バーミッシュョンの設定は、表中の値が「○」ならチェックを付け、「×」ならチェックをはずす。

	Owner	Group	Other
	r w x	r w x	r w x
jcode.pl	○ ○ ○ ○ X ○ ○ X ○		
minichat.cgi	○ ○ ○ ○ X ○ ○ X ○		
minichat.dat	○ ○ X ○ ○ X ○ ○ X		

右図でパーティションの設定の仕方を「minibbs.cgi」を例にとって説明する。

詳しい設定方法は211、212ページに掲載してあるので参照してほしい。

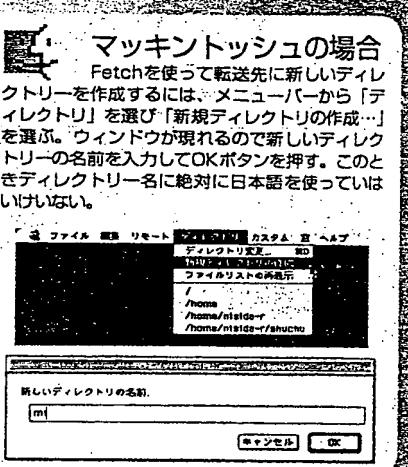


⑤掲示板システムを実行してみる

これで掲示板システムの設置は完了だ。実際に動くかどうか、WWW ブラウザでアクセスして確認してみよう。呼び出しの URL はファイルの編集で \$reload に設定した URL だ。ホームページなどからリンクを設定する場合もこの URL を使おう。

最初にアクセスするとマスターキーという管理者用の設定画面になる。マスターキーはすべての記事の削除ができるパスワードなので、忘れないように、きとめておこう。

データは「minibbs.dat」に書き込まれているので、バックアップをとるにはこのファイルを保存しておこう。



⑤ 揭示板システムを実行してみて
⑥ エラーの対応

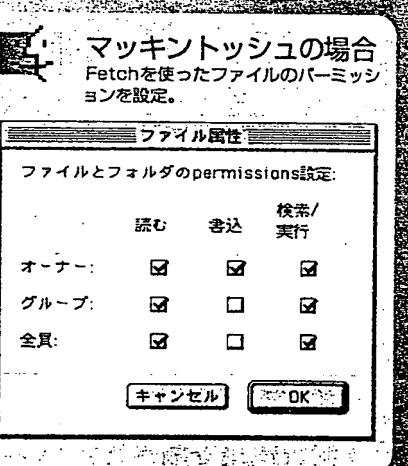
次のようなエラーメッセージがWWWブラウザに表示されたら対応策を試してほしい。それでうまくいかなければ、プロバイダーのサポートに協力してもらおう。

エラーメッセージ: Not Found

対応策：\$reloadで記述したURLが間違っている。もしくは、minibbs.cgiファイルを置いた場所が間違っている。

エラーメッセージ: Forbidden

対応策：パーティションの設定が間違っている。

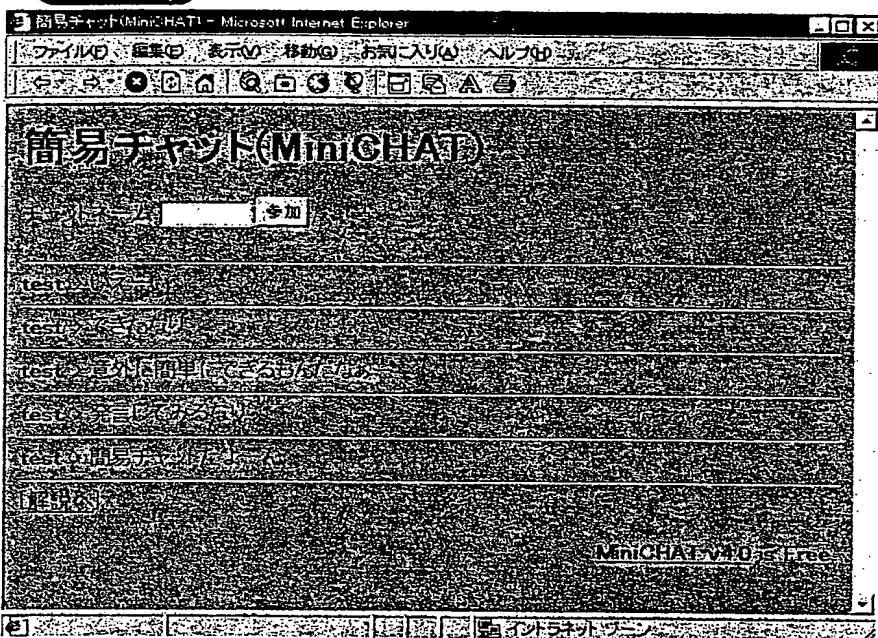


エラー メッセージ: ServerError

対応策：そのほかのエラー。バーミッシュョンの設定やファイルの置き場所を確認したうえでプロバイダーのサポートに相談する（原因究明はある程度の知識が必要）。

Tune Up 2

チャットルームを作ろう

N
3.0N
4.0

3.0

4.0

チャットはオンラインでのコミュニケーションを広げる楽しい仕掛けの1つだ。ついで深めにはまってしまい、何時間も会話を楽しんでしまう。そんな場を自分が提供してみるのもたまにはいいだろう。そこで簡単に構築できるチャットルームの作り方を紹介しよう。このTIPSもたった3つのファイルだけで作れる。機能も十分にチャットが楽しめるものとなっている。もちろん専門的な知識はいっさい必要ない。実際に動き出したら友達に教えてチャットを楽しもう。

CD-ROM収録先:
ウインドウズ [A] HTML→Win→Tune2
マックintosh [A] HTML→Mac→Tune2



- ①実行環境を開く
- ②ファイルを編集する
- ③ファイルをアップロードする
- ④ファイルのページを確認する
- ⑤ユーザーの登録

1 実行環境を調べる

Tune2フォルダーを開くと3つのファイルがある。「jcode.pl」は日本語コード変換のプログラムで、「minichat.cgi」はチャットシステム本体のCGIスクリプトだ。「minichat.dat」は会話の内容が保存されるファイルである。会話の内容がたまつくると、このファイルサイズが大きくなるので、CD-ROMの「minichat.dat」と定期的に入れ替えよう。

このシステムはCGIスクリプトが実行できるディレクトリであればどこでも置ける。



2 ファイルを編集する

「jcode.pl」はいっさい編集せずにそのまま使うが、「minichat.cgi」は環境に合わせて編集する必要がある。

まず最初に1行目のPerlの絶対パスをプロバイダーから指定されたものに変える。222ページにある表を参考にしてほしい。この文は必ずファイルの1行目になければならないので1行目に改行文字など入れないように注意しよう。また頭に「#」を付けるのも忘れないようにする。

次に「初期設定」の部分を自分の環境に合わせて変える。

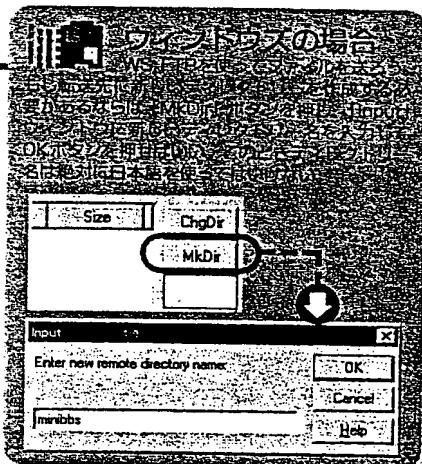
「\$modoru=」以下のURLをチャットルームからのジャンプ先（たとえば自分のホームページ）のURLに変更しよう。また「解説へ」の部分を先ほど指定したジャンプ先の名前に変えて（どちらかの値もシングルクォーテーション(')）で囲むのを忘れないようにする。

```
#!/usr/local/bin/perl
#
# 簡易CHAT version 4.0 (フリーソフト)
#
# Script written by Kazu.Y
# Created on: 26/FEB/96
# Last Modified on: 24/SEP/97
#
# 初期設定
#
$minichat_dat=$ENV{'DOCUMENT_ROOT'}."minichat.dat";
$minichat.cgi=$ENV{'DOCUMENT_ROOT'}."minichat.cgi";
$minichat_dat="minichat.dat";
$minichat.cgi="minichat.cgi";
$chat_file=".minichat.dat";
$chat_name="简易チャット(MiniCHAT)";
$modoru="http://ed.acct.or.jp/~rescue/cgi/minichat.html";
$modoru_name="解説へ";
```

③ ファイルを ウェブサイトに送る

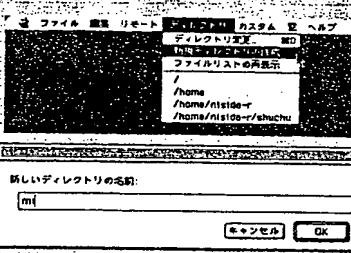
ファイルの編集が終わったら「jcode.pl」、「minichat.cgi」、「minichat.dat」を契約しているプロバイダーのサーバーにある自分のディレクトリーの下のチャットシステムを置くディレクトリーに送る。このとき3つのファイルは同じディレクトリーに置く必要がある。そこで「minichat」というディレクトリーを作って、そのディレクトリーに3つのファイルを置くことにする。

ファイルの転送方法は211、212ページで説明した通りだ。そこでここではFTPソフトを使ったディレクトリーの作成方法を説明しよう。



マッキントッシュの場合

Fetchを使って転送先に新しいディレクトリーを作成するには、「メニューバーから「ディレクトリ」を選択し「新規ディレクトリの作成…」を選ぶ。ウィンドウが現れるので新しいディレクトリーの名前を入力してOKボタンを押す。このときディレクトリ名に絶対に日本語を使っているといいらしい。」



④ ファイルのパーミッション を設定する

ファイルのパーミッションはそれぞれ次のように設定する。

表中の「r」は読み取り可能、「w」は書き込み可能、「x」は実行可能を表している。パーミッションの設定は、表中の値が「○」ならチェックを付け、「×」ならチェックをはずす。

	Owner	Group	Other
jcode.pl	r w	x r w	x r w x
minibbs.cgi	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
minibbs.dat	○ ○ X ○ ○	X ○ ○ ○	X ○ ○ ○

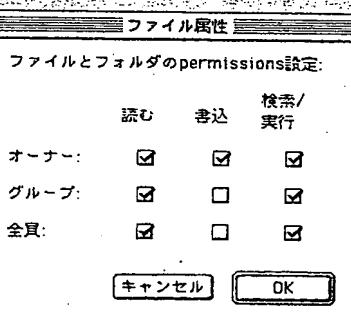
右図ではパーミッションの設定の仕方をminichat.cgiを例にとって説明する。

詳しい設定方法は211、212ページに掲載しているので参照してほしい。



マッキントッシュの場合

Fetchを使ったファイルのパーミッションを設定する。



⑤ エラーの対応

ここでチャットシステムの設置は完了だ。実際に動くかどうか、「minichat.cgi」にWWWブラウザでアクセスして確認してみよう。ホームページからリンクする場合、ここで入力したURLを記述すればいい。

以下のようなエラーメッセージがWWWブラウザに表示されたら対応策を試して欲しい。それでもうまくいかなければ、プロバイダーのサポートに協力してもらおう。

エラーメッセージ: Forbidden

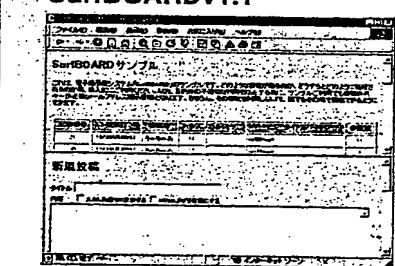
対応策: パーミッションの設定が間違っている。

エラーメッセージ: ServerError

対応策: そのほかのエラー。パーミッションの設定やファイルの置き場所を確認したうえでプロバイダーのサポートに相談する(原因究明はある程度の知識が必要)。

もっと高機能なCGIページを作りたい人に 設定および送金方法はレスキュー氏のホームページ(209ページ参照)を見てほしい。

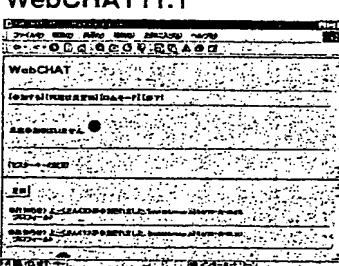
SurfBOARDv1.1



WIN: [A]HTML→Win→SurfBOARDv1.1
MAC: [A]HTML→MAC→SurfBOARDv1.1

フレームを使った見やすい画面が特徴の高機能掲示板システム。自分がどこまで読んだかが分かる既読位置保存機能付き。レスキュー氏作のシェアウェア。

WebCHAT11.1



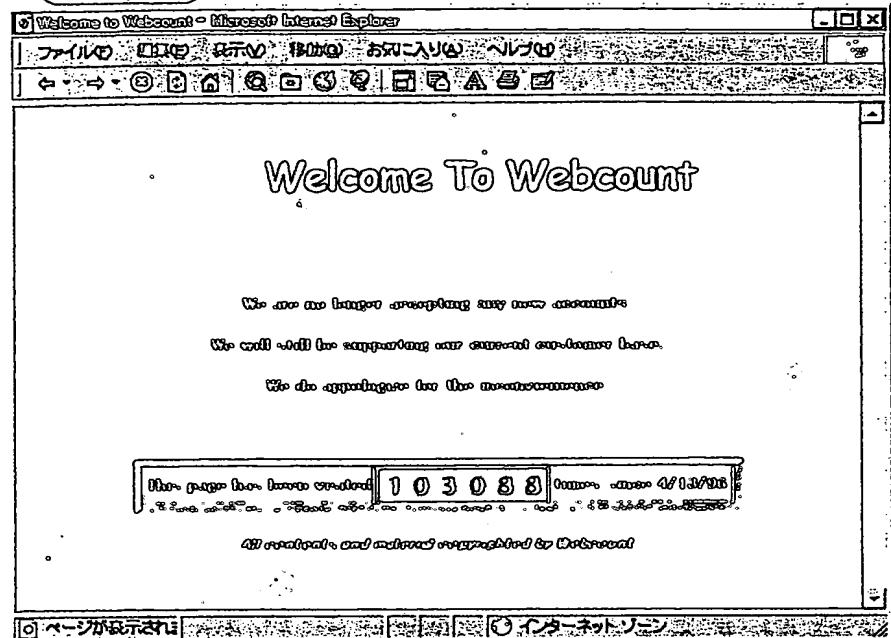
WIN: [A]HTML→Win→WebCHAT11.1
MAC: [A]HTML→MAC→WebCHAT11.1

こちらもフレームを使った見やすい画面が特徴のウェブチャットシステム。利用状況を確認できたり、ロムモードでチャットが楽しめるなど機能が充実している。レスキュー氏作のシェアウェア。

Tune Up 3

N
30 N
40 30 40

カルアクセスカウンターを取り付けよう



掲示板やチャットルームを自分のホームページに開設したら、アクセス数が変わったかどうか気になってくるだろう。そこでアクセスカウンターの設置に挑戦してみよう。紹介するのは単なるアクセスカウンターではなく数字に画像を使ったグラフィカルなものだ。SSIという処理を使うのでちょっと難しく感じるかもしれないが恐れることはない。SSIは一部のプロバイダーでは使用が禁止されているか、もしくは制限があるので、自分の契約するプロバイダーの指示に従おう。

CD-ROM版発行
Windows [A] HTML→Win→Tune3
マッキンドッシュ [A] HTML→Mac→Tune3

- ①「htaccess」ファイルを作成する
- ②SSIが使えるかどうか確認する
- ③プロバイダと契約を締める
- ④プロバイダと契約を締める
- ⑤プロバイダと契約を締める
- ⑥プロバイダと契約を締める
- ⑦実行してみる

① 「.htaccess」ファイルを作成する

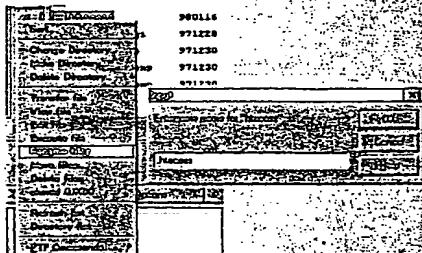
SSIはHTMLに埋め込まれた処理命令をサーバーで実行し、結果を最初のHTMLに埋め込みなおして表示する仕組みである。

SSIを利用するするためにNCSA-HTTPDやApache系のウェブサーバーでは「.htaccess」という設定ファイルが必要となる場合がある。222ページの表を参考にするかプロバイダーに確認しよう。

```
AddType text/x-server-parsed-html .html
AddType text/x-server-parsed-html .htm
```

上記のような2行を書いたテキストファイルを作成する。この意味は「.html」、「.htm」という拡張子の付いたHTMLファイル内でSSIを使えるようにするということだ。プロバイダーによっては「.html」の代わりに「.shtml」という拡張子を定義するように指定するところもあるようだ。

Windowsでは自分のコンピュータのハードディスクに「.htaccess」という名前のファイルは作成できないので、「htaccess」というファイル名で保存して契約しているプロバイダーにある自分のディレクトリーに送ったあと、名前を「.htaccess」に変更する必要がある。変更方法はWS_FTPを使ってファイルを送ったあと、ファイルの上でマウスをクリックし、出てきたメニューから「Rename files」を選べばよい。



② SSIが使えるかどうか確認する

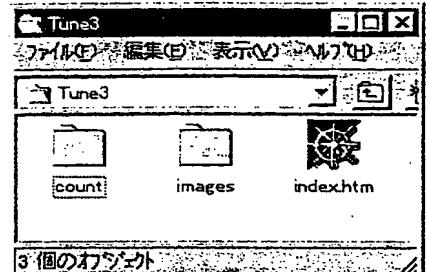
SSIが使えるかどうかを確認するにはSSIを使って簡単なコマンドをHTMLに入れる。次の二文をHTMLファイルに入れて、サイトにログインしてみる。

現在 <!--exec cmd="date"--> です。</p>

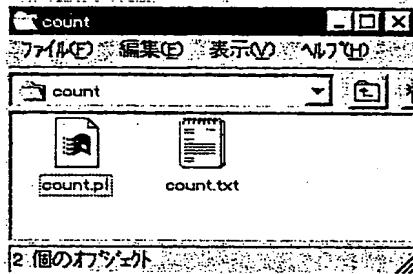
日時が表示されているればSSIが使えていない場合はWWWブラウザの「表示」を使ってソースを覗いてみて、<!--exec cmd="date"--> が表示されているか確認する。SSIが使えないことが分かったら、このSSIはセキュリティ上問題があるため、プロバイダーによっては全面的に利用を止める場合がある。また代替方法が用意されている場合に従おう。

③ ファイルを置く場所を決める

Tune3フォルダを開くと次のファイルとフォルダを確認できる。



「index.html」はSSIのコマンドが埋め込まれているHTMLファイルである。「count」フォルダはSSIで実行されるSSIアプリケーションを記述したファイルが入っている。「images」フォルダはアクセスカウンターで表示される0から9までの数字がデザインされたGIFファイルが格納されている。

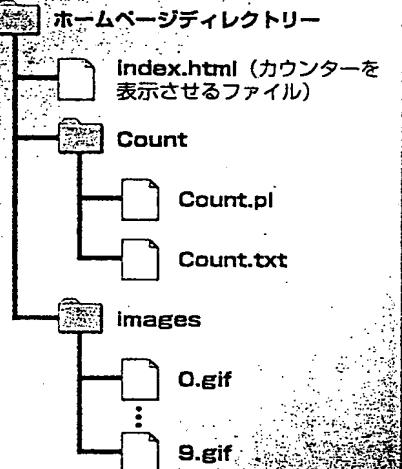


さらに「count」フォルダを開くと2つのファイルを確認できる。

「count.pl」はアクセスカウンターの処理命令が書かれたファイルである。「count.txt」はアクセス数を記録するためのファイルだ。

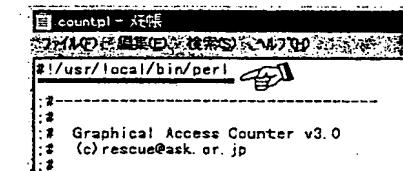
CGIとは違ってSSIはウェブサイトのどのディレクトリに置いてもかまわない。

今回は右図のように置くことにする。



④ ファイルを編集する

count.plを環境に合わせて編集する必要がある。まず最初に1行目のPerlのありかをプロバイダーに問い合わせた絶対パスに変える。この文は必ずファイルの1行目になければならないので1行目に改行など入れないように注意しよう。



このほかの設定は、ファイルを置く場所が上記と同じ場合以外は変更する必要はない。不用意にプログラムを変更するとサーバーの機能を止してしまう恐れがあるので注意しよう。

count.txtはアクセス数を記録するファイルだ。最初にカウントを開始する数字を半角数字で記録しておこう。

添付のindex.htmlはあくまでも参考のファイルである。自分のサイトのトップページにアクセスカウンターを付けるならば、次の文をトップページのHTMLファイルの中に付け加えよう。

Ⓐ <!--#exec cmd="/count/count.pl"-->

⑤ ファイルをウェブサイトに送る

「count」フォルダと一緒にimagesディレクトリの下に「index.html」という名前で新しいHTMLファイルを作成する。「index.html」の内容は、以下の通りだ。Windowsの場合には「htaccess」でアクセス権限を許す方法と、Linuxでは「.htaccess」でアクセス権限を許す方法がある。Windowsの場合の変更方法は、Ⓐで示した通りにしてほしい。

⑥ ファイルのパーミッションを設定する

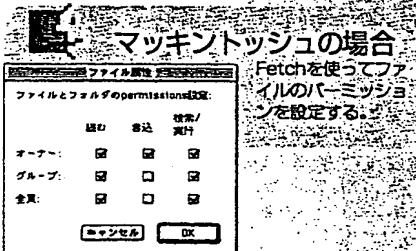
ファイルのパーミッションはそれぞれ次のように設定する。

表中の「r」は読み取り、「w」は書き込み、「x」は実行を表している。

	Owner			Group			Other		
	r	w	x	r	w	x	r	w	x
count	○	○	○	○	○	○	○	○	○
count.pl	○	○	○	○	×	○	○	○	○
count.txt	○	○	×	○	○	×	○	○	○

これ以外のファイルは、ファイルを送ったままのパーミッションでかまわないので、もうまくいかないようであれば、パーミッションの設定で読み取り可能にしてほしい。注意してほしいのは、「count」がディレクトリであることだ。ディレクトリもパーミッションの設定ができる。

パーミッションの設定の仕方をcount.plを例にとって説明する。



⑦ 実行してみる

これで完了した「index.html」を自分のウェブサイトにアップロードして確認してみよう。常にBUSYと表示される場合は、ディレクトリにすべてのページを用意するかどうかを確認しよう。以下のURLなどで直接アクセスして、このカウンターがちゃんと動いているので、自分の好きなように複数の同じファイルを用意すれば複数のページを楽しめる。



Tune Up 4

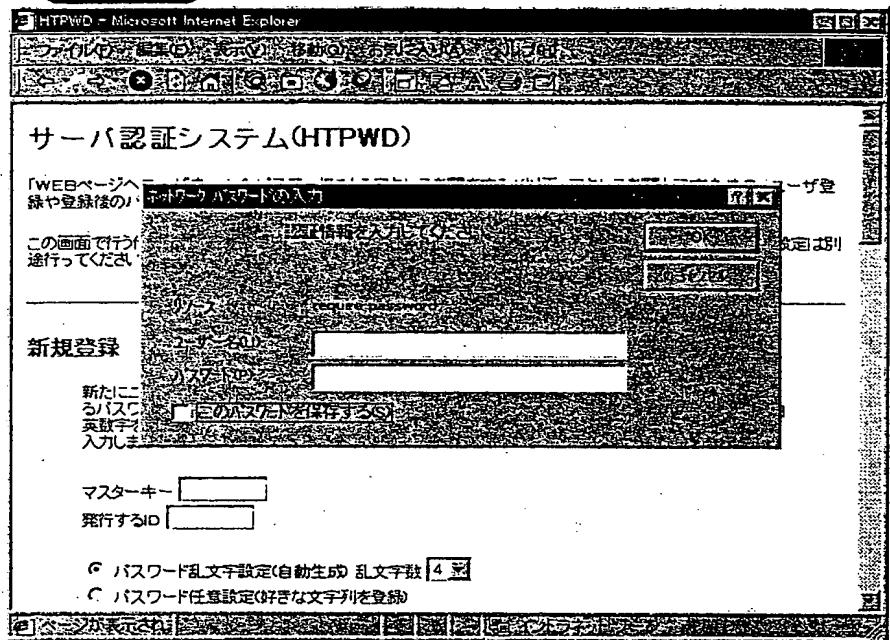
N
3.0 N
4.0

1

3.0

-4.0

ードを使ってアクセスを制限しよう



掲示板やチャットルームをホームページで公開してアクセス数が増加してきた。しかし秘密の会話は他人には見せたくない。そんな場面もホームページのチューンアップを続けると出てくるだろう。ここで紹介するテクニックはそんな願いをかなえてくれる、特定のディレクトリーだけにアクセスを制限してくれる方法だ。しかもウェブサーバーの機能を使った本格的なものとなっている。掲示板のようにいろんな人が勝手に書き込めると第三者に悪用されるケースだってある。さっそく自分のホームページに秘密の扉を作ろう。



- ① フロントドアの把手を確認する
 - ② フロントドアを開き場所で入める
 - ③ フロントドアを閉めさせる
 - ④ フロントドア開閉音を確認する
 - ⑤ フロントドアがエラフライドドアである
 - ⑥ フロントドアのハンドル位置を確認する
 - ⑦ ハンドル位置を記録する

① プロバイダーの環境を確認する

この機能を取り付けるには、サーバー上のディレクトリーの絶対パスを知る必要がある。210ページで詳しく説明したように、絶対パスとはサーバー上でファイルやディレクトリーの絶対的な位置を示すものだ。FTPで表示されるディレクトリーの位置は必ずしも絶対パスではないので、プロバイダーに確認しよう。

セキュリティ上の問題から絶対バスをユーザーに教えていないプロバイダーも少なくないので、必ず確認してから取り掛かって欲しい。

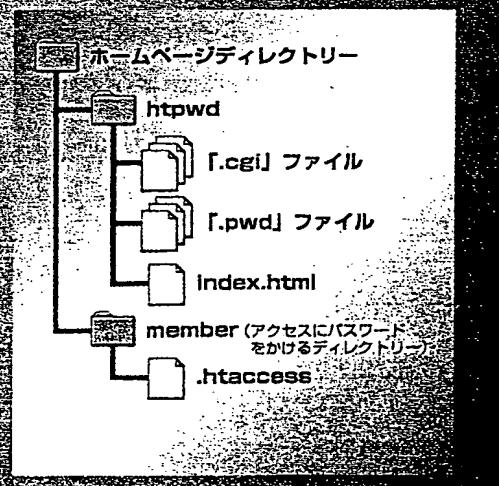
またプロバイダーによっては絶対バスを使わない方法を提供しているところもある。併せて確認してみよう。

② ファイルを置く場所を決める

ファイルを置く位置関係は、CGIスクリプトをどのディレクトリーに置いてもよい場合と、指定されたディレクトリーに置く場合とで異なる。そこで2通りとも紹介しておく。

▲CGIスクリプトをどのディレクトリーに置いててもよい場合

右図を見てほしい。ここでアクセスを制限するディレクトリーは「member」である。このディレクトリーに「.htaccess」というファイルを置く。このファイルには、どのパスワードファイルを読んでアクセス制御を行うかなどが記述されている。「htpasswd」はパスワードやパスワード管理のCGIスクリプトを置くディレクトリーだ。

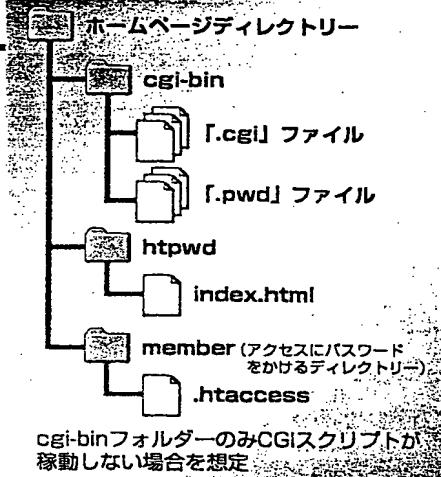


② 次にCGIスクリプトファイルを置くディレクトリーが決まっている場合

右図を見てほしい。CGIスクリプトを実行できるフォルダーを自分のホームページディレクトリーの下の「cgi-bin」というディレクトリーと仮定する。

先ほど同様に「member」がアクセスを制限するディレクトリーになっている。このディレクトリーリーに「.htaccess」というファイルを置く。

パスワード管理システムは先ほど述べた拡張子が「.cgi」とあるファイルと「.pwd」のファイルを「cgi-bin」の下に置いている。さらに「htpwd」の中に「index.html」がある。このためパスワード管理システムがバラバラに存在している。



CGIスクリプトを実行できるフォルダーが左図と異なる場合は、プロバイダーのホームディレクトリーに合わせて変更して欲しい。基本的に「.cgi」と「.pwd」が拡張子のファイルをCGIスクリプトを実行できるフォルダーに持つだけで、CGIアクセスを制限するディレクトリーの名前が置かれた所は、制限するディレクトリー内に「.htaccess」というファイルを置きたいところへの場合、注意できむ。ただし、プロバイダによっては環境が違うため記事中の設定とは異なる場合がある。うまく行かない場合はプロバイダのサポートなどに相談してみるのも一つの手である。

③ ファイルを編集する

②のAの場合には特にファイルを編集する必要はない。②のB場合は、「index.html」中の拡張子が「.cgi」というファイルへのアクセスURLを次のように変える。これは「index.html」から各「.cgi」ファイルへのパスを変更したものだ。②のBと違うフォルダーに置いた場合は、「.cgi」ファイルへのパスを自分が置いた場所の相対パスに変えて置こう。

```

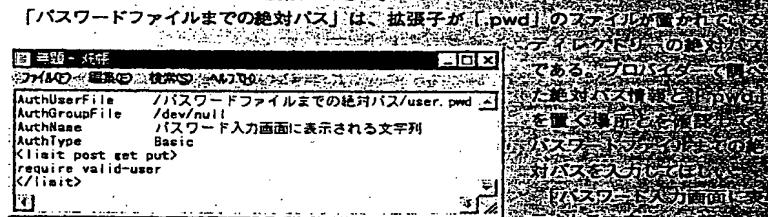
<form method=post action=".//cgi-bin/regist.cgi">
<form method=post action=".//cgi-bin/change.cgi">
<form method=post action=".//cgi-bin/remove.cgi">
<form method=post action=".//cgi-bin/remove2.cgi">
<h3><a href=".//cgi-bin/master.cgi">■</a>マスターキー設定/変更</h3>

```

④ アクセス制限を設定する

次にアクセス制限をするための設定ファイルを編集する。

②で示した場所に「.htaccess」というファイルを置く。このファイルをディレクトリーに置くことによってアクセス制限ができる。



自分で入れたい文字列を入力する。日本語を使うとWWWブラウザにて正しく表示できないことがあるので注意しよう。そのほかの設定についてはオフィシャルサイト

⑤ ファイルをウェブサイトに送る

②で決めた場所のとおりにファイルを送る。これ以外にほかのディレクトリーへのアクセスを制限したい場合は、「.htaccess」ファイルを制限するディレクトリーに置けばいい。

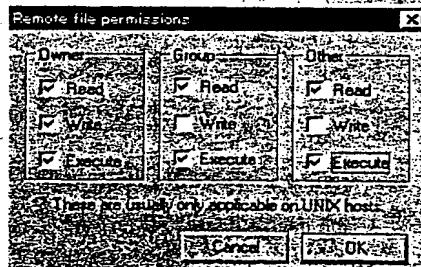
⑥ ファイルのパーミッションを設定する

ファイルのパーミッションは以下のとおりである。表中の「r」は読み取り、「w」は書き込み、「x」は実行を表している。

	Owner	Group	Other
拡張子.cgiのファイル	r ○	w ○	x ○
拡張子.pwdのファイル	○ ○	○ ○	x ○

これ以外のファイルは、ファイルを送ったままのパーミッションでかまわない。もしうまくいかないようであれば、パーミッションの設定ですべて読み取り可能にしてほしい。

パーミッションの設定の仕方を拡張子が「.cgi」のものを例にとって説明する。(Windowsで、WS_FTPを使った場合)。



⑦ 実行してみる

セットアップが終わったら「index.html」ディレクトリーの下の「index.html」をクリックして、各種の登録をする。IEなどのブラウザで開いて、

登録がうまくいかない場合は、拡張子を「.pwd」のファイルにする。

登録が成功した場合、IEのアドレス欄に

「.htaccess」ファイルに記述したURLを記入して、WWWブラウザで開く。

次のようにユーザー登録の画面が表示される。

登録したユーザー名「user」で「user.pwd」を実行すれば、パスワードが表示される。